

P-16 アラビア語チュニス方言の語りにおける末尾の文について

熊切 拓

cyberbbn@gmail.com

キーワード：現代アラビア語方言、語順、語り、主題化、動詞文

要旨

本発表では、北アフリカのアラビア語チュニス方言（チュニジア）による物語集を資料として用い、物語の末尾に、どのような文が現れるかについて、主題の有無の観点から検討した。その結果、物語の末尾の文には、主題文と、独立した主語をとみなさない無題文の動詞文である V 型（とくに w- 《そして》が付随する w-V 型）が多く現れること、無題文で動詞・主語の語順となる VS 型はほとんど現れないことがわかった。機能的な違いとしては、末尾の主題文は、物語に関するまとめ・教訓・コメントなどを述べるのに対し、w-V 型は物語の筋の展開の終着点を示す、というものであった。本発表では、前者を「まとめ機能」、後者を「終着点機能」と名づけた。

1. はじめに

語りは、複数の場面の連続によって構成される。それゆえ、場面転換を聞き手に対してわかりやすく示すことは、語りにおいてもっとも基本的な技法のひとつと考えられる。そのような場面転換の技法には、明示的に場面転換を語るもの（「さて、場面変わりますて……」）もありうるが、これとは別に、場面転換を直接的に言明しない暗示的なものもありうる。この後者においては、もちろん、語られる内容も重要であるが、その「語られたこと」が場面の始め、もしくは終わりであることを聞き手に示す文法的手段も役割を果たしていると考えられる。そこで、場面転換にさいして、特定の文法的手段が観察されうるのか、そしてもしそうならば、どのような文法的手段なのか、ということが課題となる。

本発表では、こうした「場面転換における文法的手段」考察の一環として、アラビア語チュニス方言の物語を対象に、その物語の末尾に現れる文（「末尾文」）の文法的特徴について調査を行った。具体的には、主題の有無という観点から、物語の末尾文を分類し、その機能の違いを検討した。

本発表の構成は次のとおりである。導入となる本節の次の第 2 節では、本発表の扱う言語であるアラビア語チュニス方言の概略と使用した資料について述べる。第 3 節では本発表の課題を明らかにし、第 4 節ではこの言語の主題について概観する。第 5 節では調査について述べ、第 6 節では具体例を検討する。第 7 節は結論となる。

2. アラビア語チュニス方言の概略と資料

アラビア語チュニス方言（以下チュニス方言）は、現代アラビア語諸方言のひとつであり、チュニジア共和国の首都チュニスを中心にコイナーとして広く用いられている言語である（Gibson 2009）。32 種の子音（b, bʰ, m, mʰ, f, θ, ð, ðʰ, t, tʰ, d, n, s, sʰ, z, zʰ, r, rʰ, l, lʰ, ʃ, ʒ, k, g, x, ɣ, q, h, ʕ, h, w, j、IPAに準ずる）と、長短合わせて 6 種の母音（i, a, u, i:, a:, u:/）をもつ。名詞のクラスは男性（M）・女性（F）に分かれ、単数（SG）と複数（PL）の区別がある。動詞には完了形（PERF）、未完了形（IMPF）、命令形（IMPR）の 3 つの活用系列があり、人称・数・性によって活用する。

次に、本発表で用いる略号をまとめる。1/2/3：1 人称、2 人称、3 人称、DEF：定冠詞、F：女性、IMPF：未完了形、IRR：非現実モダリティ辞、M：男性、PERF：完了形、PL：複数、PP：受動分詞、-：

形態素境界。

本発表の資料として用いたのは、『アル＝アルウィー物語集』(Al-ʕArwi:, ʕAbd-al-ʕazi:z (1989) hika:ja:t al-ʕArwi: Vol. I-IV. 2nd edition. Tunis: Al-Dar Al-Tu:nisi:ja li-l-Nafr) である(同書には2023年の版もあるが、誤植が多いため、本発表では使用しない)。本書は、ʕAbd-al-ʕazi:z Al-ʕArwi: がラジオでチュニス方言で語った昔話、人情話、逸話、伝説など111話をまとめたものである。例文の引用にさいしては、訳文末の()内に、ローマ数字で巻番号、アラビア数字でページ番号(p.)と行番号(l.)を記し、必要に応じて物語名と該当ページも加えた。なお、本発表は科研費(19K13183、22K00548)および「ナラティブをめぐる形態統語論(アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題)」の研究成果の一部である。

3. 本発表の課題

本発表の課題は、チュニス方言の物語における場面転換、とくに場面の終わりに現れる文の文法的な特徴を調べることにある。だが、場面の終わりの文を特定するためには、どのようなものを場面とみなすかが明確に定義されていなくてはならない。ところが、この場面の定義したい自明のものとはいえない。もっとも簡単なのは、資料である『アル＝アルウィー物語集』の本文の段落分けにしたがうことだが、段落の区切りが、場面の区切りと常に一致するとはかぎらない。

語られた内容もまた、場面の区切りの大きな手がかりとなるのは確かである。しかし、内容的にどのような変化があれば場面が変わったと言えるかについては、さまざまな要素が複雑に絡んでいるため、いまのところ明確な基準を立てることはできない。

そのいっぽう、どの物語にも、複雑な定義の問題に踏み込むことなく「場面の始め」と「場面の終わり」とみなしうる文がある。それは、物語の開始と末尾の文である。

そこで、本発表では、場面転換の文法を明らかにするための調査の一環として、物語の末尾に現れる文(末尾文)の種類と機能について検討を行った。

4. チュニス方言の主題文とその機能

発表者がチュニス方言についてこれまで行ってきた研究によると、場面の終わりには主題文が現れることが多い。本発表で扱う物語の「末尾文」にも同じような傾向が想定できるため、本発表では、末尾文が「主題文かそうでないか、そして、主題文とそうでない文とではどのような違いがあるか」という点に焦点を当てて調査を行うこととした。

そこで、本節では、チュニス方言の主題文について概観する(詳しくは熊切2018)。

チュニス方言には名詞類(名詞、形容詞、前置詞句、副詞など)が述語となる名詞文と、動詞句が述語となる動詞文の2種の文がある。

名詞文は(1)のように主語なしで述語のみで文として成立しうる。また、(2)のように主語も現れうる。

(1) rʕa:zil-ha: bzu:d-u:
男-彼女の 自身-彼 「(彼は)彼女の夫その人だ」 (I, p.21, l.12)

(2) rʕa:zil-ha: miyyit
男-彼女の 死んでいるSG.M 「彼女の夫は死んでいる」 (I, p.9, l.5)

チュニス方言においては、名詞文の主語は同時に主題であると考えられることができるため、(1)は無題文、(2)は主題文(有題文)となる。

動詞文では、文中の要素を文頭に出すことで主題化することができる。そのさい、主題として文頭

に出た要素がもともと文中で占めていた位置には、主題に一致する人称辞が存在していなくてはならない。動詞文の基本語順は (3) のように動詞・主語の順の VS 型となり、主語が主題化された場合、(4) のように主語・動詞の順の SV 型となる。主語が主題化された場合、主題に一致する人称辞は、動詞の屈折辞に含まれることになる ((4) の場合は三人称単数男性) 。

(3) VS 型 fi-θ-θni:ja qa:lt-ilha: l-afru:sa
 中に-DEF-道 言う PERF.3SG.F-彼女に DEF-花嫁
 「道すがら、花嫁が彼女に言った」 (I, p.20, 1.3)

(4) SV 型 (主題文) si-t-ta:zir l-akhal qa:l-lu:
 敬称-DEF-商人 DEF-黒い 言う PERF.3SG.M-彼に
 「黒い商人殿は彼に言った」 (I, p.115, 1.9)

動詞文ではまた主語以外の目的語などが主題化される場合もある。主語の場合と比べて非常に少ないため、本発表では SV 型に含めて扱い、動詞文の主題文全体を SV 型で表すこととする。

動詞文にはもうひとつ無題文となる構文がある。それは、主語が単独で現れず、動詞の屈折のみで示される V 型である。

(5) V 型 qa:l-lu: tilʕab-ʃi: ʃ-ʃitʕranʒ
 言う PERF.3SG.M-彼に 遊ぶ IMPF.2SG-IRR DEF-チェス
 「彼 (黒い商人) は彼に言った。『あなたはチェスはやりますか?』」 (I, p.114, 1.15)

すなわち、動詞文には、主題文である SV 型と、2 種の無題文 (VS 型と V 型) があることになる。

これらの主題文および動詞文の 3 つの構文の機能の違いであるが、チュニス方言の主要な文法研究ではこの点に関して十分な言及はない (Singer 1884, Gibson 2009)。そこで発表者のこれまでの研究を利用してまとめると、まず、主題文である SV 型は他の文との関係において出来事を述べる機能がある (熊切 2021: 115)。そして名詞文と動詞文を含む主題文はまた、接続詞 w- 《そして》に後続した場合 (「w-主題文」)、場面を締めくくる「収束文」として機能しうる (熊切 2024a)。

VS 型は「先行する語りから分離した新情報として出来事を述べ」る機能がある (熊切 2021: 115)。チュニス方言にかぎらずアラビア語一般でも同様の指摘がなされている (Hoyt 2009: 657)。

V 型は「すでに設定された場面において本筋の展開を担う」機能があるが (熊切 2021: 115)、接続詞 w- 《そして》に後続した場合には、「先行する一連の行為の締めくくりとなる」行為を述べる、という機能をもつ (熊切 2023)。

5. 調査の方法と結果

この節ではデータ収集の基準についてまとめる。調査の対象とした『アル＝アルウィー物語集』には 111 の物語が収録されており、そのそれぞれの物語の末尾の文を集めた。物語の中にはいくつかの短い物語を集めて 1 話としたものもあるが、そうした物語でも、全体の末尾文のみを採用した。

また、発話動詞に後続する発話や、接続詞によって導かれる従属節が末尾にくることもしばしばある。その場合、発話や従属節を末尾文とみなした。それは、これらの文が内容的に物語を閉じる重要な役割を果たしているからである。ただし、関係節と接続詞を hatta: に後続する節は除外した。関係節は独立度が低いためであり、また hatta: 節は常に VS 型となるためである。

- (6)w-hazz fa:s-u: w-mja: yhatʔib ki:f
 そして-取る PERF.3SG.M 斧-彼の そして-行く PERF.3SG.M 薪を集める IMPF.3SG.M ように
- ʕa:ditt-u: hatta: razq-u: rabb-i: min-rizq il-hla:l itʔ-ʔayyib
 習慣-彼のまで授ける PERF.3SG.M-彼に 主-私の から-富 DEF-合法的 DEF-良い
- 「(富を得ようとして失敗した木こりは) そして、自分の斧を取り、神(我が主)が彼に合法で良い富を与える(そのときが来る)まで、いつものように薪集めに行った(のであった)」
 (II, p.48, l.17, il-hatʔa:b, 39-51)

さらに、主題文かどうかという観点からは整理のしにくい末尾文も多くあった。それらは、条件文、疑問文、命令(「出ていけ!」)、詩、祈り・呪い(「善をなす者よ、汝に幸あれ!」)などの25例であり、これらは除外することとした。したがって、本発表の考察の対象となるのは、111例から25を引いた86例ということになる。

この86例を、名詞文の主題文・無題文、動詞文の主題文(SV型)、無題文(VS型、V型)のそれぞれでどれだけ現れたかをまとめると以下のようなになる。なお、2つのパーセンテージのうち、スラッシュ右にあるものは、『アル=アルウィー物語集』のうち最長の物語である mnajira ja:mnajira のテキストに含まれる1650例の名詞文と動詞文での主題文・無題文の分布を示す。

(7)主題の観点から見た末尾文の分布(86例)

- a. 主題文(名詞文と動詞文) 35例(41%/16%)
 無題文(名詞文と主題文) 51例(59%/84%)
- b. 名詞文 23例 主題文 17例(74%/44%)
 無題文 6例(26%/56%)
- c. 動詞文 63例 主題文(SV型) 18例(29%/12%)
 無題文(VS型) 6例(10%/11%)
 無題文(V型) 39例(61%/77%)

末尾文のみで全体的な傾向をとらえると、主題文と無題文では無題文のほうが多く、無題文ではV型が多いということになる。しかしながら、末尾文に関わらずテキスト全体での分布と比較すると、次のような傾向が見て取れる。

- (8)a. 末尾文では主題文の割合が多い(16%から41%)。
- b. 名詞文は、テキスト全体では無題文が多いが、末尾文では逆転して主題文のほうが多くなる。
- c. 動詞文では、テキスト全体ではV型が多く、SV型とVS型はほぼ同じであるが、末尾文ではSV型が多くなり、そのぶんV型が減っている。

これらの傾向をまとめると、末尾文では全体として主題文が増加していると考えられる。そこで、次の節ではこれらの末尾文がどのような機能を持っているかについて、主題文と、もっとも多いV型を中心に検討する。

6. 末尾文の機能と構文

本発表で調査対象とした末尾文を意味の観点から捉えると、2つの機能的カテゴリーに大きく分けられる。その2つとは、物語全体の教訓・まとめ・コメントを述べるもの(ここでは「まとめ機能」

と呼ぶ) と、物語の終着点となる行為、状態を述べるもの(「終着点機能」とする)である。86 例のうち、まとめ機能をもつ末尾文は 50 例ほど、終着点機能は残りの 30 例ほどであった。厳密に数が出せないのは、あいまいな例があるからである。

さらに、この 2 つの機能は、主題文かどうか、どのような動詞構文かという構文上の区別におおよそ対応している。すなわち、まとめ機能の末尾文は主題文、終着点機能の末尾文は V 型となるという傾向がある。明確にまとめ機能をもつと判定できる主題文は 32 例(うち名詞文 17 例)であり、明確に終着点機能をもつとみなすことのできる V 型は 32 例であった。

主題文がまとめ機能をもち、V 型が終着点機能をもつ傾向にあるということは、第 4 節でまとめた主題文と V 型(とくに w-V 型)の機能とも合致している。

そこで、まとめ機能と終着点機能という機能の分類にしたがって、以下、具体例を検討する。

6.1. まとめ機能：主題文

86 例のうち、末尾の主題文は 35 例、そのうち 32 例が明確にまとめとして機能している。すなわち、末尾の主題文のほとんどがこの機能をもつと考えられる。動詞文(9)と名詞文(10)の例を挙げる。

(9) w-illi: yuqsʻud yuqsʻud da:r kbi:ra
そして-REL 目指すIMPF.3SG.M 目指すIMPF.3SG.M 家 大きい

「(迫害者からの逃亡者が最後に安全と富を得た歴史物語の末尾文) そして、求める者は、大きな家を求めるものなのである」(III, p.106, l.1, l-ha33a:3 bin yu:sif (2), 99-107)

(10) w-ha:ði: hi:ya sba:b il-faqr
そして-これ こそ原因 DEF-貧困

「(貧しい人が主人公の物語の末尾文) そして、これこそが貧困の原因なのである」

(I, p.364, l.14, is-saʻd w-il-faqr, 343-367)

名詞文においては主語と主題は同一ということ述べたが、(10)では、独立人称代名詞 hi:ya 《彼女》が主題標識として機能しているため、ha:ði: は主語ではなく主題とみなすことができる(この独立人称代名詞の意味と主題との関連については熊切 2024b を参照されたい)。末尾の名詞文主題文にこのような独立人称代名詞がしばしば現れること(5 例、(15)も参照)も、末尾の主題文のまとめ機能と関連していると考えられる。

6.2. 終着点機能：V 型

終着点機能が認められる V 型は(39 例のうち) 32 例あるが、そのうち 25 例が、等位接続詞に後続する w-V 型である。第 4 節で述べたようにこの型は、「先行する一連の行為の締めくくりとなる」行為を述べる機能をもつ。これが物語の末尾における w-V 型の多さと関係していることは明白である。

末尾の w-V 型には、物語の終着点となる行為、状態を述べる 2 つのタイプがある。そのそれぞれの例を次に挙げる(終着点の行為が(11)、状態が(12)、また前掲の(6)も終着点的状態を述べるものである)。

(11) w-3ibdu: hbal w-fanqu:-h fi:-zi:tu:na
そして-持つてくるPERF.3PL ロープ そして-吊るすPERF.3PL-彼を に-オリーブの木

「(恩人を裏切った男の末路を述べる結末) そして、彼らはロープを持ってきて、オリーブの

木に彼を吊るした」 (III, p.399, l.16, il-xa:yin, 402-402)

- (12) w-qʕad fi:-buqʕit nsi:b-u: yuhkum
そして-座る PERF.3SG.M に-場所 義父-彼の 治める IMPF.3SG.M
「(冒険の末、若者は王座につき、王である) 義父の座に座り、(王国を) 治め続けたのであつた」 (I, p.293, l.16, illi: ba:ʕ wa:ldi:-h, 275-297)

なお、主題文でも動詞が未完了形の場合は、(12) に似た永続的状态を表すことがある。

- (13) w-il-bi:ba:n mahu:la w-id-da:xil yihanni:
そして-DEF-扉 PL 開ける PP.SG.F そして-DEF-入る人 祝う IMPF.3SG.M
w-il-xa:riʒ yhamni:
そして-DEF-出る人 祝う IMPF.3SG.M
「(冒険の末、若者は王となり、華やかな結婚式が行われ、お城の) 扉は開け放たれ、入る人は祝う、出る人は祝う (というおめでたい状況が続いた)」 (I, p.242, l.14, ʕʒab il-mlu:k, 223-248)

6.3. VS 型の末尾文

VS 型は 6 例と少ないが、これは第 4 節で述べたように、この構文が新しい事態を導入する機能をもつことに関連している。まとめ機能と終着点機能の双方の例があるが、例が少ないので、十分な分析は今のところできない。ただ、登場人物ではない無生物などが主語の場合にこの構文になるようである。無生物主語で、終着点的状況を述べるものを次に挙げる。

- (14) w-faddu: θ-θni:ya w-tqatʕit axba:r-hum
そして-取る PERF.3PL DEF-道 そして-途切れる PERF.3SG.F 知らせ-彼らの
「(知恵で王たちから富を手に入れた夫婦は) 旅に出発し、それきり行方は杳として知れないのであつた (=彼らの知らせは途切れた)」 (I, p.428, l.8, iʒ-gra:da w-l-ʕasʕfu:r, 397-431)

6.4. まとめ機能と終着点機能の違い

まとめ機能と終着点機能は、どちらも末尾に現れるため、大きな違いがないように捉えられるかもしれない。この節では、w-V 型と主題文が連続して現れる例を検討することで、終着点機能の w-V 型とまとめ機能の主題文の違いをより明確にしたい。

『アル＝アルウィー物語集』では、物語に加えて、語り手であるアル＝アルウィーの見解が述べられることがある。たとえば、チュニジアの民話に類似したヨーロッパの民話をチュニジア方言で紹介する場合が何度かあるが、そのような場合、物語そのものの末尾文に w-V 型が現れ、その後のコメントには主題文が現れることがある。次の例は、フランスの民話をチュニス方言で語ったものの末尾である。

- (15) w-sʕhhah fi:-fʕʕar min-mahkimt-u: w-ha:ða: hi:ya taqri:b
そして-署名する PERF.3SG.M に-DEF-半分 から-支配地-彼の そして-これ こそ ほぼ
hka:yit bu:k ʕkarrik w-il-yu:l illi: hka:w-ha:-lma:
物語 (固有名) そして-DEF-ゲール REL 語る PERF.3PL-それを-私たちに
il-kull w-ahna: sʕya:r
DEF-すべて そして-私たち 小さい PL

「(主人公の活躍の結果) そして (王は) 自分の支配地の半分を (主人公に与える) 署名をし

た。そして、これこそは、私たちが子どものころに、人々が私たちに語ってくれたブーク・アカリックとグールの物語ぜんぶとほぼ同じなのである」(III, p.118, l.14, bu:k sakrik, 109-119)

(15) では、物語の結末が w-V 型で、そしてその物語に対するコメントが主題文で述べられている。この例から、終着点機能とまとめ機能の違いを次のように理解することができる。終着点機能とは、物語の筋の展開が最終的な到着点に至ったということを示す機能である。これに対し、まとめ機能とは、物語の展開ではなく、物語に関する最終的な認識を示す機能である。

つまり、物語には 2 つの終わり方があることになる。ひとつは物語の内容の終着点を示すことで終わる終わり方であり、もうひとつは物語についての教訓・意図・コメントを述べることで終わる終わり方である。おそらく、この終わり方自体は特別なものではないにしても、チュニス方言では、前者が w-V 型、後者が主題文というように、それぞれの終わり方が構文によっておおよそ区別されているということが、本発表の主張である。

7. まとめ

本発表では、チュニス方言の物語集の物語の末尾にどのような文が現れるかを主題の有無の観点から調べた。その結果、末尾の文には、主題文と無題文の V 型（とくに w-V 型）が多く現れ、主題文の末尾文には「まとめ機能」、w-V 型の末尾文には「終着点機能」があるという主張を行った。

終着点機能は物語の展開上の終着点を示す機能であり、これに対し、まとめ機能は物語についての最終的な認識を示す機能である。チュニス方言による物語では、この 2 つの終わり方が、構文によって区別されていると考えられる。

Toolan (1988) によれば、物語には story と text と narration の 3 つのレベルが存在するという。story は物語の抽象的な筋、text は物語の筋の語り方、narration は語り手に関わるものと考えられる。この 3 つのうち、言語形式と密接に関わるのは、text と narration であるが、この 2 つを本発表で扱った 2 つの機能とあえて関連づけるならば、物語の筋の終わりを示す終着点機能を text に、語り手の最終的な認識を示すまとめ機能を narration に、それぞれ結びつけることができるかもしれない。

この物語論上の区別と、言語形式上の区別との関連の探究は、これからの課題であるが、本発表では、物語の語りには少なくとも物語の筋と語り手の認識という 2 つのレベルがあり、言語形式上も、ある程度は対応関係が見られるということを示すことができた。

参考文献

- Gibson, Maik. 2009. Tunis Arabic. In: Versteegh, Kees, Mushira Eid, Alaa Elgibali, Manfred Woidich, and Andrzej Zaborski (eds.) (2009), 563-571./Hoyt, Frederick M. 2009. Verbal Clause. In: Versteegh, Kees, Mushira Eid, Alaa Elgibali, Manfred Woidich, and Andrzej Zaborski (eds.) (2009), 653-659./熊切拓 2018. 「アラビア語チュニス方言における主題化」『東京大学言語学論集』40, 119-133./熊切拓 2021. 「アラビア語チュニス方言の V S 構文による語りの構造化」『言語研究』160, 97-122./熊切拓 2023. 「アラビア語チュニス方言の語りにおける等位接続詞の機能」『第166回日本言語学会大会予稿集』226-232./熊切拓 2024a. 「アラビア語チュニス方言の等位接続詞の用法」『開智国際大学紀要』23, 59-69./熊切拓 2024b. 「アラビア語チュニス方言の 3 人称独立人称詞の談話モダリティ用法」『武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要 The Basis』14, 141-151./Singer, H-R. 1984. Grammatik der Arabischen Mundart der Medina von Tunis. Berlin/New York: Walter de Gruyter./Toolan, Michael J. 2001. Narrative: A Critical Linguistic Introduction. 2nd ed. London: Routledge./Versteegh, Kees, Mushira Eid, Alaa Elgibali, Manfred Woidich, and Andrzej Zaborski. (eds.) 2009. Encyclopedia of Arabic language and linguistics. Vol.IV. Leiden/Boston: Brill.